



# 加古だより

加古小学校通信  
令和5年10月号  
No.22 (338号)

## 令和5年度 加古小学力・学習状況調査結果

校長 吉田 博明

### 国語

○成果があった点      ●課題がある点

#### 話すこと・聞くこと

必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、自分の考えを伝え合う学習は、国語科のみならず、他教科等においても積極的に行っている。その成果として、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える力がついてきている。今後は、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめていけるようにする。

○話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができる。

●目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる。

#### 書くこと

図やグラフ、表などを読み取る学習は、理科や社会科などの他教科等の学習でも行っている。一つの図やグラフ、表を読み取ったり、そこからわかること、考えた事などを書いたりすることはできている。しかし、複数の図やグラフ、表などを比較しながら読み取ったり、わかったことや考えたことを工夫して書いたりすることは難しい。また、字数制限のある中で書く経験が少ないため、一定の分量内に自分の考えをまとめて書けるようになることも課題である。

○図表やグラフなどを読み取り、自分の考えを書くことができる。

●図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し、手法を工夫することができる。

#### 読むこと

資料を読み、目的を意識して中心となる語や文を見つけたり、必要な情報をみつけたりすることができる。しかし、資料を読み、読み取ったことをもとに自分の考えをまとめることは難しい。読み取ったことをもとに、自分の考えをどう深めていくのかが課題である。

○目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。

○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができる。

●読み取ったことをもとに、自分のこととして考えをまとめる。

## 言語の特徴や使い方に関する事項

授業や日々の家庭学習で漢字練習を行い、間違いやすい熟語については、漢字辞典を使って意味を調べたり、短文作りをしたりする学習を取り入れていて、敬語や漢字を正しく使うことができている。しかし、文章の特徴を捉えるための言葉の意味を正しく理解できていない。今後は、言葉の意味にも注目しながら文章の特徴やその効果について考えられるようにする。

○日常よく使われる敬語を理解する。

○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。

●文章の種類とその特徴について理解する。

## 算 数

○成果があった点      ●課題がある点

### 小学校 数と計算

計算ドリルやワークを使った反復練習の成果として、基礎的な計算や数に関する知識は定着している。ただ、設問3(2)のように場面に合わせた式を作り、さらに計算しやすく工夫するという点においては課題がある。誤答の中でいちばん多かったのは、立式できたもののその後計算まちがいをしていた児童だった。3つのファイルのはばを別々に出したことにより、まちがいが多くなったことが予想される。( )を使った計算ができるかどうかではなく、( )をつかったり順番を入れ替えたりすることで計算が簡単になり、まちがいも減り、その結果日常生活に役立つということを感じる機会を授業の中に設定することが課題である。

○整数・小数・分数の四則計算ができる。

○( )を用いた式や、加法と情報の混合した式を場面と関連して読み取ることができる。

●示された日常生活の場面を解釈し、求め方を式に表し、計算が簡単になるように工夫することができる。

### 小中共通 図形

四角形や三角形といった低学年の頃から慣れ親しんだ図形に対しては理解があり、正答することができる。しかし、4年生になってから勉強した「台形」や5年生で学習した「内角の和」については学んだ知識を使って課題を解決する段階にはなく、やはり反復して図形やその特徴に触れる機会を作ること、さらに、単元ごとに学ぶ内容を区切るのではなく学んだ知識を複数使いながら課題を解決する機会を持つことが大切である。

○三角形や平行四辺形などの基本図形の定義や性質の理解。

●図形の性質を理解した上で性質を使って問題を解く。

●面積を求める公式を使い、面積を求めることができる理由を説明する。

小学校 測定 : 今年度なし

## 小学校 変化と関係

設問1の比例に関係する問題は全国平均より高い正答率になっており、比例の関係を使う文章題の答えの出し方を説明できている児童も多かった。反対に、設問4の割合に関係する問題では、割合が30%になるものを選ぶときに、どちらか一方は正解を選んでいる児童が半数を超えている。式を書いて答える問題であれば計算する中で確認ができるが、選択肢のある問題では、「なんとなく」「大体」の見当で選択肢を選んだ結果誤答につながっている可能性が高いと考える。学校のテストでは選択肢を選ぶ問題が出るのが少ないが、普段から言葉の一つ一つにこだわったり、自分の解答が本当に合っているか自分自身で確かめたりして、確実に正答に繋がれるように指導することが必要である。

○伴って変わる二つの数量が「比例する」理由を言葉で説明することができる。

●百分率で表された割合について理解している。

## 小中共通 データの活用

誤答の多かった設問4(2)表の中から問題で指定された数(30以上)を見つける問題では、問題の中で示された部分以外の要素を数えたり、示された部分も合わせて数えてしまったりしている児童がほとんどだった。このことより、「30分以上」という言葉と、表の中からその数を見つけるという点は理解していたものの、「運動した時間の合計」という部分を読み切れず、誤答につながったと考えられる。

同じく(4)も、一つ一つの言葉に注目して答えれば正答は難しくなかったと考えられるが、問題文の内容をよく理解せず選択肢を選んでいることが誤答につながっている。よって基礎的な用語や計算の力をつけることは大切だが、さらに複雑な文章問題(解答に関係のない数字が出てくるなど)を解く経験をして、膨大な情報量の中から自分が必要とする情報を選び取る力を伸ばしていく必要がある。

○複数のグラフから異なる点を言葉で説明する。

●問題文の言葉に注目し、内容を正確に読み取ったうえで必要な情報を読み取る力。

## 学校・家での様子

本校の6年生児童は、「毎日同じぐらいの時刻に寝ている」、「毎日同じぐらいに時刻に起きている」と回答した児童の割合が全国、県平均より高く、望ましい生活習慣の定着が見られる。また、「自分にはよいところがある」、「人の役に立つ人間になりたい」、「学校に行くのは楽しい」と回答した児童の割合が極めて高く、自己肯定感と社会貢献意識が高いウェルビーイングの状態が確保できていると推測できる。

「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」はどれも9割を超えている。特に「人が困っているときは、進んで助けていますか」では「当てはまる」と答えた児童が90.9%で、全国平均の45.6%の倍近くあり、6年生児童の規範意識の高さがうかがえる。

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」、「友達関係に満足していますか」は、全国・県平均とほぼ同じ。「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の割合は全国・県平均より高くなっており、さらに学校

を安心して楽しく過ごせる場所できるよう取組を進めていきたい。

学習に対しては、「1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」について、「普段」、「土日や学校が休みの日」ともに、「1時間以上、2時間より少ない」児童が一番多い。「自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表しましたか」や「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」は、どちらも全国、県平均のほぼ倍の50%の児童が「当てはまる」と答えており、「学び合い」など授業の中で自分の考えを説明する機会を多く設定している効果が出ているのではないかと考えられる。

「国語の勉強が好きですか」に「当てはまる」と答えた児童が全国平均の2倍以上もあり、「国語の勉強は大切だと思いますか」、「国語の授業の内容はよく分かりますか」、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか」に、「当てはまる」と答えた児童が全国平均よりもかなり高く、国語への興味関心が非常に高いことが分かった。

「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使った」と答えた児童が、全国平均よりも10ポイント以上多く、「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。（遊びなどの目的に使う時間は除く）」では、2時間以上ICT機器を勉強のために使っている児童が全国平均の3倍近くおり、ICTを活用した学習の取り組みがかなり進んでいると考えられる。

また、学校以外の読書時間は、全国、県平均とほぼ同じ。家庭にある蔵書数は100冊以上500冊未満となっており、家庭の読書環境を上手く活用し、読書時間を増やせればと考える。

「地域の行事に参加する」児童は、95.4%で、全国平均の57.8%を大きく上回る。また、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」児童の割合も高く、地域との連携・協働が進んでいると言える。

半面「将来の夢や目標を持っていますか」に対して「持っている」と答えた児童の割合が72.7%で全国平均の81.5%よりもやや低く、「新聞を読んでいますか」、「読書は好きですか」という項目では、ほとんど読んでいない子や、好きではないと答えた児童が全国、県平均より多かったことが課題として挙げられる。

以上のように、6年生の児童は規則正しく生活し、意欲的に学校生活に取り組んでいる。また、友だちと話し合ったり協力し合ったりして物事に取り組むこともできている。今回の結果を教職員で共通理解を行い、児童の指導に活用していきたい。